

令和5年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立第三中学校

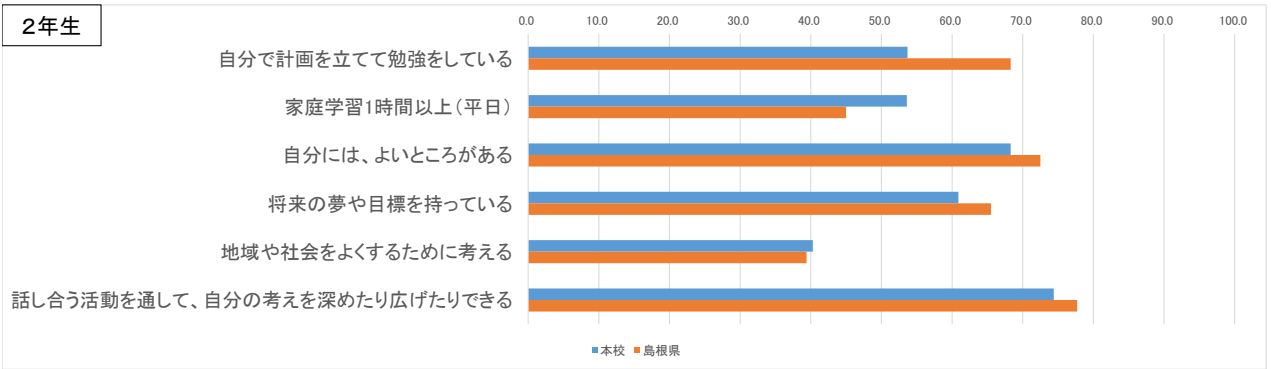
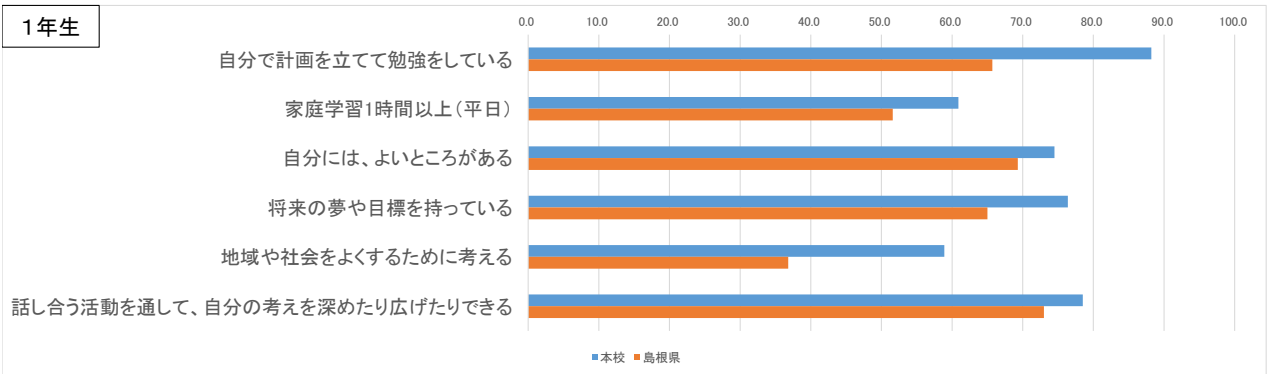
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
国語	○領域別にみると、「話すこと、聞くこと」「読むこと」において、目標値に達成している。 ●小学校で学習した漢字の書き取りが、できていない。また、情報と情報との関係を理解し、まとめて文章にする力に課題がみられる。	○ほとんどの領域で目標値を達成しており、特に「話すこと、聞くこと」「読むこと」の正答率が高い。 ●論理の展開に注意して話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる力や、情報と情報との関係について理解して文章を整える力に課題が見られる。
数学	○全般的に、県や全国よりやや平均点は低いが、他の教科に比べると差は少ない。また、思考力や活用を問う問題の正答率は比較的良好。 ●知識・技能など基礎力を確認する問題ができていない傾向がある。ドリル学習の不足が原因と考えられるので、今後の課題としたい。	○授業態度や日々の振り返りなど意欲的な態度を見せている。引き続き、今の意欲を大切に声をかけを継続していく。 ●全ての分野において、平均値より低い結果が出ている。知識・理解や思考力・表現力・判断力を育む授業を継続的に行う必要がある。特に、図形の論証については、意欲的に行っている。図形の論証から行っている「教科書を読み、班で全員が説明し合う活動」を継続していく予定にしている。
英語	○語彙を問う問題、語形・文法の知識・理解などの基本的な問題はおおむね良好である。 ●長文を読み取って内容について正確に答える問題を苦手になっている生徒が多い。場面・状況に応じて書く条件英作文や自分の意見や気持ちについて書く英作文に課題が残っている。自分の意見や気持ちを短い英文で書いたり、話したりする活動、英文で日記や絵葉書を書く活動を継続的に行う予定である。	○主体的に学習に取り組む態度や記述の平均正答率が県や全国より高く、意欲的に取り組もうという姿勢が見られる。 ●語彙力や基礎知識の定着という点で課題が見られる。語彙力の向上と基礎知識の定着、活用する力をつけていく活動を継続していく予定である。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
意識	○家庭学習1時間以上(平日)の割合が、県平均より高い。家庭での自主学習が定着しつつあり、内容も単に計算や漢字練習だけでなく、学習内容のまとめなどが増えてきている。夕食は家族で取っている割合が高いので、家族でのコミュニケーションは取れていると考える。 ●本や新聞を読んでいる割合が低く、活字離れが心配される。視覚に頼ったメディアやスマホ等の使用が多いと考えられるので、メディアをコントロールできる力をつけていく必要があると考える。また、朝食をきちんと取っていない生徒もいるので、家庭との連携も必要である。	○平日の家庭学習の時間は県平均より高く、また学習にICT機器を利用したり、参考書等を利用する生徒も増えており、理解を深めようと努めている姿勢がうかがえる。 ●家庭学習の時間は確保しているが、自分で計画を立てて学習する割合が低いので、将来の夢や目標と結びつけて計画的、自主的に学習する力をつける必要がある。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R5学力調査受検者数】 1年生 48 名 2年生 89 名 (欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)